

最優先すべきは、「生活」の実現とその持続である

100年生活 "FORESIS"

「みなとみらい21」は単なる大規模開発ではなく、理想都市計画の成功事例である。

それは埋立事業に始まり、地域冷暖房システムや、広闊な道路、電柱のない街路などのインフラ

整備、みなとみらい21地区には災害時に50万人・3日分の飲料水を確保する

貯水槽も備えられている。

公園、病院、ホテル、商業文化施設などの建設に続き、昨年春には

みなとみらい線が開業。その理想都市に、いよいよレジデンス、住宅が

加わった。横浜ランドマークタワーなど、M.M.21地区の開発に当初より

携わってきた三善地所が手がける『M.M.TOWERS FORESIS』は

M.M.21地区の中心に位置し、「みなとみらい」駅まで徒歩1分。

R棟はすでに完売、L棟が現在販売中である。記者は思う、最優先すべきは、自己実現ではなく、「生活」の実現とその持続だ。

『FORESIS』はその機能と価値、快適が100年持続するようデザインされている。

「L棟に住みたい」とは、単にL型スライジの高いタワーマンションに住みたいのではない。

持続する、理想の都市生活を手に入れることである。



パーキングは、タワー棟内部と低層棟屋内に配置。屋外パーキングも木立に覆われ、美しいツインタワーと、森しか見えない

環境性能

都市森という生態系のなかに住む

横浜高速鉄道「みなとみらい」駅徒歩1分、病院や文化商業施設至近といった利便と引き替えに、「自然」を失う必要はない。ここは海が近く、風が渡り、空が広い。『FORESIS』はFOREST + OASISの造語。その名の通り、低層棟の屋上緑化を含め、2万㎡を超える敷地の約42%を「森」にする。落葉樹60%、常緑樹40%。単なる緑化ではない。春芽吹き、秋に色づき、冬に落葉し、野鳥が集つ、ひとつの「生態系」創造を目指す。「森」は、住まう方とともに年輪を重ねてゆく。

免震構造が、100年、3世代にわたる安全性、さらに居住性を持続

地盤改良のうえ、支持層に堅固な杭を打ち、積層ゴムとダンパー等による最高レベルの免震（制震ではない）構造を介し、タワー本体が載る。この免震構造は、平時はタワーをしつかり支え、大地震時は揺れを吸収、躯体へのダメージを最小限に抑え、家具の転倒事故なども防ぐ。『FORESIS』の耐震等級は、病院、消防署など災害時の

持続性能

拠点と同等の「3」。超高層マンションとしては異例の安全値である。免震構造により、タワー本体の地震力負担が減るため、梁や柱のない居住空間を実現。さらに、スケルトン&インフィル設計思想導入により、将来のライフスタイル変化に対応するフルリフォームを容易に。100年、3世代にわたり機能と快適を維持する。



基礎と免震構造、タワー本体の概念図。先の新潟県中越地震でも、免震構造を採用した建築は、ほとんど被害がなかった。05年9月、建設中の『FORESIS』。免震構造の上に高強度コンクリートが打設され、ツインタワーのベースが完成しつつある



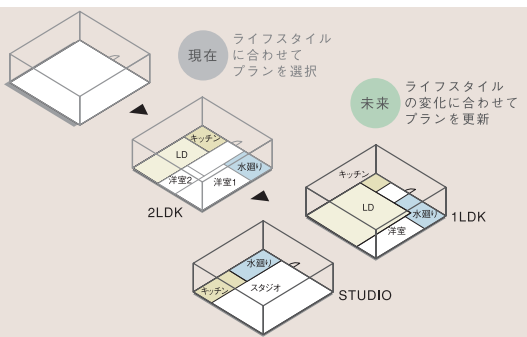
居住性能

大空間・省エネ・高セキュリティ & ライフプラン対応

前項で述べたように、リビングダイニングなどの住戸中央部に、柱、梁が無く、床から天井まで続く窓など広い開口部を持つ、心地よい居住空間を実現。地域冷暖房システムにより、空調室外機が不要で、ベランダも広い。スケルトン（構造体・共用配管など）とインフィル（住戸内装）の分離は、子どもの独立など、将来のライフスタイル変化に対応した、水回りの変更も含めたりフォームを容易にする。

高遮熱・断熱性を有するLOWE複層ガラスを採用。全熱交換式24時間換気システムと相まって、省エネルギー。

高遮熱・断熱性を有するLOWE複層ガラスを採用。全熱交換式24時間換気システムと相まって、省エネルギー。セキュリティも、エントランス防災センター24時間有人管理のうえ出入口を分離。入り口はICタグ利用の最新セキュリティゲートとし、エレベーター停止階制御など近未来性能である。



↑スケルトン&インフィル概念図。水回りを含めた、間取りの全面的リフォームが容易。←愛・地球博にも採用された、ICタグを利用したエントランスゲート。都市生活に必要なとされる安全性をより堅固に

L棟モデルルーム公開中

more information of "M.M.TOWERS FORESIS"

フォレシスギャラリー

0120-917-371 www.mmtowers40.jp